

## 昭和58年 WHEEL HOUSE, CONTROL ROOM

### 1. 「ペがさす丸」 「船の科学」1983 - 4 (Vol.36, No.4) より採取。

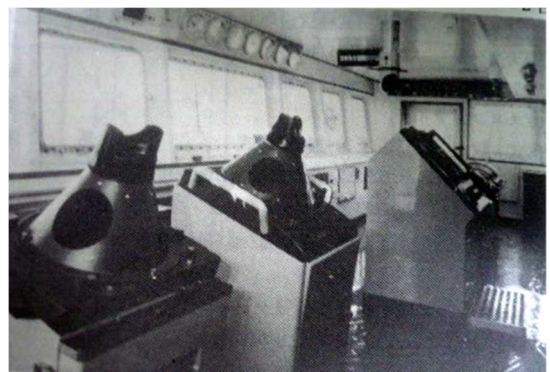
- ・省エネ、パナマックス 66,000DWT 型散積船「ペがさす丸」 DWT 66,713 t  
省エネ対策としては、大直径、低回転プロペラの採用、住友スターンバルブ (SSB, 船尾に振動低減のためスターンバルブを設ける方式) の採用、排ガスターボ発電機の採用など。
- ・船主 : 第一中央汽船 (株) 丸の内海運 (株)
- ・建造 : 住友重機械工業 (株) 追浜造船所 昭和58年1月11日 竣工

・ 1) は本船全景、2) は操舵室。

1) W58 - 01 ペがさす丸 本船全景



2) W58 - 02 ペがさす丸 操舵室



### 2. 「千城川丸」 「船の科学」1983 - 5 (Vol.36, No.5) より採取。

- ・超省エネルギー 世界最大のばら積運搬船「千城川丸」 DWT 224,666 t 主な貨物は石炭、鉄鉱石。  
省エネ対策としては、低速ディーゼル・エンジン1機1軸方式の採用、大直径・5翼可変ピッチ・プロペラの採用、風圧抵抗の少ない船橋構造の採用、排ガスターボの採用など。
- ・船主 : 川崎汽船 (株)
- ・建造 : 川崎重工業 (株) 坂出工場 昭和58年3月10日 竣工

・ 3) は本船全景、4) は操舵室、ブリッジ・コンソールやレーダの前方にスペースを取り、展望のよい操舵室となっている。5) は Ballast Control Console, 6) は Engine Control Console で、データロガーは CPU 組み込みで、CRT 表示方式となっている。

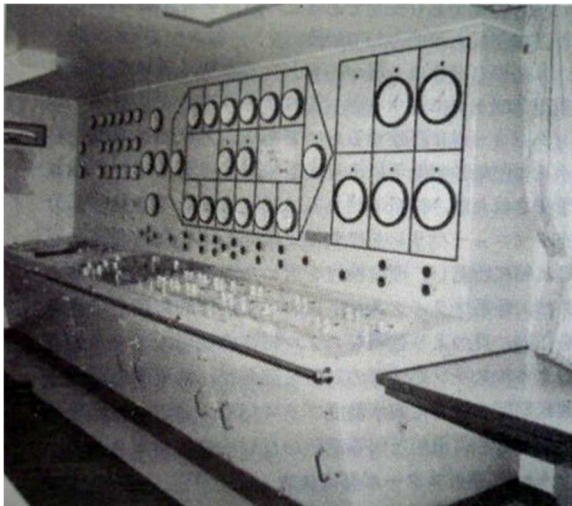
3) W58 - 03 千城川丸 本船全景



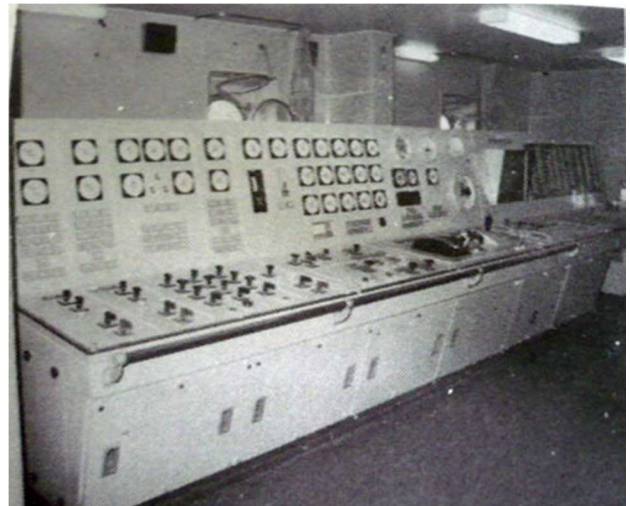
4) W58 - 04 千城川丸 操舵室



5) W58-05 千城川丸 Ballast Control Console



6) W58-06 千城川丸 Eng. Control Console



3. 「クリーン りばー」 「船の科学」1983-9 (Vol.36, No.9) より採取。

- ・省エネルギー 76,000 m<sup>3</sup> 型 L P G 運搬船「クリーン りばー」 DWT 51,894 t (IMCO Gas Code Type G, Semi-Membrane Tank (Propane Tank))

省エネ対策としては 大容量の軸発電機(1,800kW)の採用、主機の排ガス・エネルギーを回収し、ここで発生する蒸気で蒸気タービンを駆動し推進力の一部として還元する方式の採用、ギヤード・ディーゼル主機関の採用、CPP の採用など。

- ・船主 : 川崎汽船(株)
- ・建造 : 川崎重工業(株)神戸工場  
昭和58年3月30日 竣工

7) W58-07 クリーン りばー 本船全景



・7) は本船全景、8) は操舵室、9) は貨物及び機関制御室。

8) W58-08 クリーン りばー 操舵室



9) W58-09 クリーン りばー 機関制御室



4. 「NESTOR」 「船の科学」1983-10 (Vol.36, No.10) より採取。

68,000 m<sup>3</sup> 積プロダクト・キャリア (石油製品運搬船)「NESTOR」 DWT 62,278 t

- ・船主 : Apache Tankers Corp.(Greece)



・建造 : 三井造船(株)千葉事業所 昭和58年5月28日 竣工。

・10)は本船全景、11)は操舵室、12)はCargo Console, 13)は Engine Console

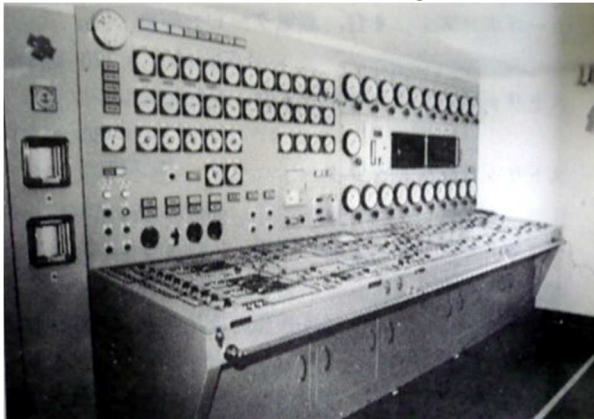
10)W58-10 NESTOR 本船全景



11)W58-11 NESTOR 操舵室



12)W58-12 NESTOR Cargo Console



13)W58-13 NESTOR Engine Console



5.「倉島丸」 「船の科学」1983-10(Vol.36, No.10) より採取。

・40万CF型省エネ多目的高速冷凍船「倉島丸」 DWT 8,470t

省エネ対策としては、スリム船型採用、粗悪油使用可、主機排ガスの利用、衛星航法(NNSS)による最短航路の航行など。

・船主 : 八島海運(株)

・建造 : 四国ドック(株) 昭和58年5月7日 竣工

・14)は本船全景、15)は機関制御室 (機関室第2甲板左舷)

14)W58-14 倉島丸 本船全景



15)W58-15 倉島丸 機関制御室



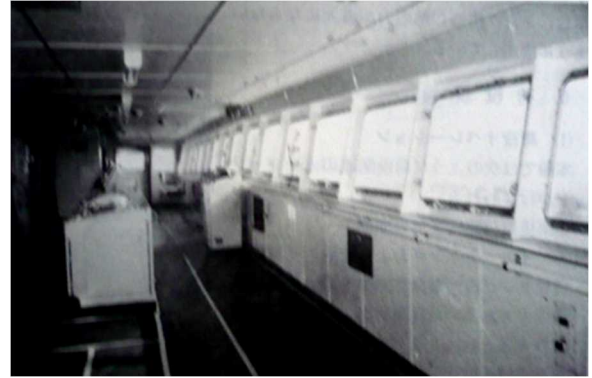
6. 「尾州丸」 「船の科学」1983-11 (Vol.36, No.11) より採取。

- ・我国初めてのLNG船「尾州丸」 DWT 70,546t モス方式独立球形型LNGタンク、槽容量 125,915m<sup>3</sup>、主機タービン 40,000PS、速力満載航海 19.3 kn、発電機 ターボ 3,125kVA×2、ディーゼル 1,500kVA。
- ・船主 : 川崎汽船(株) 日本郵船(株) 大阪商船三井(株) 三社共有船。
- ・建造 : 川崎重工業(株) 坂出工場 昭和58年8月16日 竣工

16) W58-16 尾州丸 本船全景

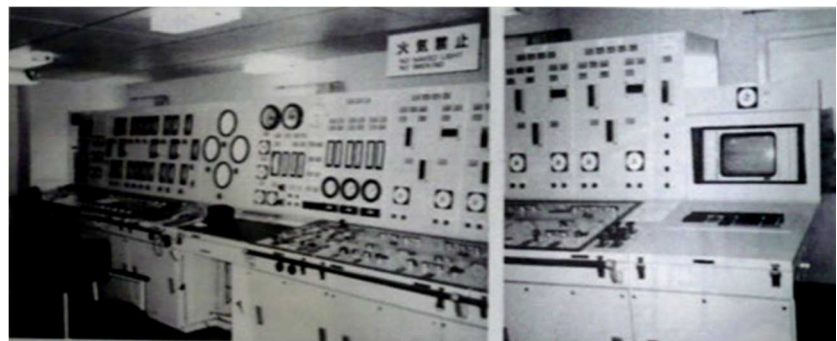


17) W58-17 尾州丸 操舵室



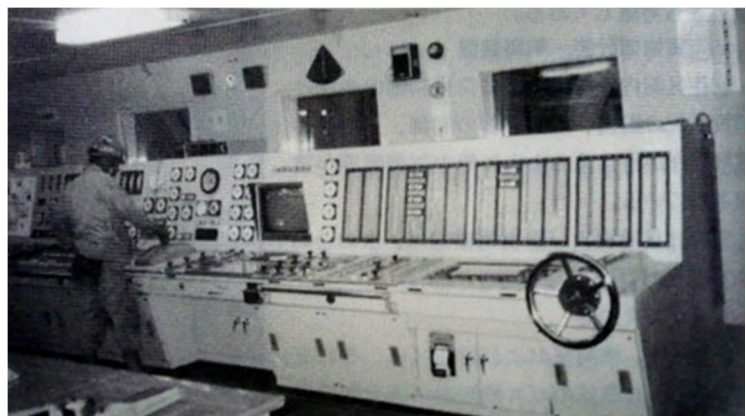
18) W58-18 尾州丸 貨物制御室

- ・16) は本船全景
- 17) は操舵室、見通しを良くするため、巾を広く取っている。
- ・18) は貨物制御室、操舵室直下の居住区内に設けられている。集中監視盤にて、荷役状況の監視、主要機器の制御、主要弁の遠隔制御が行えるようになっている。



19) W58-19 尾州丸 機関制御室

- ・19) は機関制御室で、一般のタービン船と異なるのはボイルオフガス燃焼装置、余剰蒸気処理装置を装備していることである。



7. 「播州丸」 「船の科学」1983-12 (Vol.36, No.12) より採取。

- ・最新鋭 125,000 m<sup>3</sup> 型LNG船「播州丸」 DWT 67,055 t、モス方式球形タンク×5 タンク容量 125,542.215 m<sup>3</sup>、主機タービン 40,000PS、速力(満載航海) 19.3 kn、発電機 ターボ 2,500 kW×2、ディーゼル 1,500 kW×1、非常用ディーゼル 200 kW を装備している。
- ・船主 : 川崎汽船(株) 日本郵船(株) 大阪商船三井(株) 三社共有船。
- ・建造 : 三菱重工業(株) 長崎造船所 昭和58年10月20日 竣工



- ・ 20 ) は本船全景、 21 ) は操舵室、船首部が見えにくいいため I T V を設けている。
- ・ 22 ) は機関制御室、機関部の監視警報装置は 2 - C P U , 2 - C R T 方式となっている。
- ・ 23 ) は荷役制御室、操舵室直下に設けられている。

20 ) W58 - 20 播州丸 本船全景



21 ) W58 - 21 播州丸 操舵室



22 ) W58 - 22 播州丸 機関制御室



23 ) W58 - 23 播州丸 荷役制御室



8 . 「ZARAGOZA」 「船の科学」 1984 - 3 (Vol.37, No.3) より採取。

- ・ 80,000 DWT パナマックス型 ORE / BULK / OIL 兼用船「ZARAGOZA」, DWT 79,992 Lt
- 省エネ対策として 低燃費、超ロングストローク型主機、主軸駆動発電機、排ガス・エコノマイザー・ターボ発電機など採用。
- ・ 船主 : Wayland S.A. (Panama)
- ・ 建造 : 三菱重工業(株)長崎造船所 昭和58年11月22日 竣工

- ・ 24 ) は本船全景、 25 ) は操舵室、手前は Bridge Console 。
- ・ 26 ) は荷役制御室、 27 ) は機関制御室。

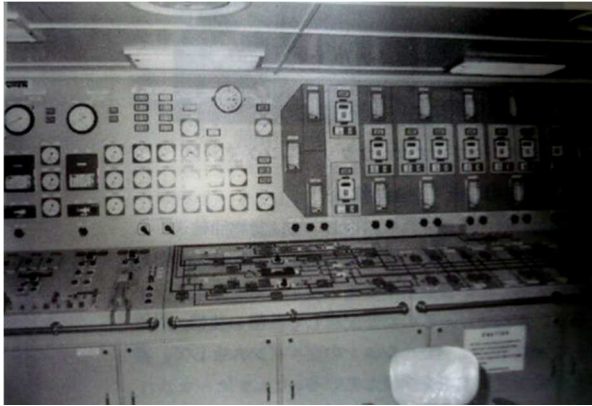
24 ) W58 - 24 ZARAGOZA 本船全景



25 ) W58 - 25 ZARAGOZA 操舵室



26) W58 - 26 ZARAGOZA 荷役制御室



27) W58 - 27 ZARAGOZA 機関制御室



**[メモ]**

- 1) 国内向けの LNG 船が建造され始めた(尾州丸、播州丸)。
- 2) この年もいろいろな省エネルギー対策が取り入れられた。前年と重なる対策が多いが、目新しいものとしては低燃費・超ロングストローク型機関の採用、ギヤード・ディーゼル機関の採用、主軸駆動発電機の採用、スリム船型の採用など。